

Q 「合理的」な配慮とは？「合理的でない配慮」はあるでしょうか？

A ①「合理的配慮」の意味は「対象の子にピッタリ合った配慮」と考えてください。

正式に言えば「認知特性にあった配慮」という意味です。

認知特性のズレた支援をされても、うまくいかないことは明らかです。

（極端例：見えない子に見て理解する資料を渡しても意味がない。）

それまで困り続けてきた子が、教師の好みであてずっぽうに配慮されて、さらに苦しめられることのないようにしなければならないのです。

「合理的配慮」の正式な手続きは、本人・保護者からの申し出があり、主治医等のアドバイスも受けて正式に提供する支援なので、対象の子の認知特性を理解した上で提供する具体的配慮になります。

②「合理的でない配慮」とは「対象の子の認知特性に合っていない配慮」の意味です。

支援者側が良かれと思って準備した配慮でも、対象の子の認知特性に合っていないものは「合理的でない配慮」です。

③「教育的配慮」について説明します。

全体のために教師が準備する配慮は「教育的配慮」に当たり、認知特性に応じた数種類の「教育的配慮」を「教育的配慮」として準備することができれば、個別の「合理的配慮」が不要になる場合もあります。

合わせて、生徒に学び方の種類を体験させる指導、自分にとって効率の良い学び方を判断させる指導が大事になります。

Q 個別で対応が必要な生徒にどこまで求めるべきか？

A 生徒に求めることは、「毎日元気に学校に来る。授業を受ける。」ことだけで十分だと思います。

「毎日元気に学校に来てくれたら、先生はそれだけでとっても嬉しい。」とぜひ言葉にしてあげてください。

「学校に来る。何もしないけど、教室にはいて、授業を受けている。」それだけでも、実際は毎日大きな学びを得ているのです。

いつもはやらない子が意欲を見せたなら、それは十分賞賛に値します。なぜやる気スイッチが入ったのか？

生徒に直接聞くことが、私達教師の一番の学びになります。**教師の師は生徒達です！**

学力も力の一つなので、体力と同じように、「無いよりはあった方がいいぞ。」とアドバイスはしても、学力を必要とするか？しないかは、生徒自身が決めるべきことです。取り組めない子には取り組めない理由が必ずあるので、その全てを一人の教師が背負いきれるものではないと思います。

ただ、いつか「学ぼう」と思った時に、どうすればいいかを教えておくことは大事です。

もちろん、今すぐその子をやる気にさせることができれば、それはとても素晴らしいことです。

学びは怒られてするものではありません。楽しいと感じることができれば、生徒は自ら学び始めると考えています。

Q 生徒の特性が分からない状態での指導は、どのようなものがありますか？

A 「教育的配慮の充実」＝「先生方の手札の数」が自分の学び方を学ぶ機会になります。

学級経営

①学びを成立させるための人間関係育成

- ・エンカウンター等でクラス全員が、誰とでも会話ができる関係性を育成する。

※「仲良し」が目的ではありません。誰とでも話し合える生徒にするための指導です。

些細なことでさえ会話ができない関係性で、深い学び合いはできません。

②学習成立のための座席決め

- ・学校で一番大事なものは授業です。座席は授業のためのものでなければならないと思います。

※私は、座席は教師が決めるべきものと思っています。

「全員の学力を上げて、全員の夢を叶えるのが、先生の目標」という理由をきちんと生徒にも伝えて、座席は生徒個々の育成計画に従って配置されるべきものと思います。

- ・認知に弱さがある生徒は、本人と良く話し合い、年間を通して固定席固定列とする。

一番前の席（先生のそばが安心する子）

二番目の席（前にモデルがいた方が良い子）

最後尾（背後の気配に敏感で人が後ろにいると安心できない子、身体を動かすことで覚醒する子）

廊下側の列（眩しい子、右耳難聴の子、途中授業離脱を許す子）

窓側の列（黒板の反射がまぶしい子、左耳難聴の子）

※学級の了解も得て、先生の支援が届きやすくしながら、先生の支援で他の生徒との繋がりを作っていくことが大事だと思います。

③学習ルール「例：話を聞く姿勢の指導」

・聴覚や注意に弱さのある生徒達にとって、不要な音が多い環境では、先生の話を聞くことが出来ません。無駄話を許されない環境作りは、学力向上に欠かせません。全員が話を聞く時と、話していい時を、きちんと分けて授業に臨む姿勢を育てることがとても大事です。

- ・生徒に課題に取り組ませている時の先生の無駄話も、最も注意すべき邪魔な音です。

・認知が弱く、真面目な生徒程、先生の話は全て聞かなければならないと思っていて、どんなにくだらないうことでも一生懸命聞いて、反応しようとする生徒がいます。そのせいで課題が進まなく、分からないことが増えて、学校が辛くなってしまう生徒がいます。

・生徒が育って来て、あえて邪魔をされても必要なものに注意を向け続けることができる、無視することが出来るように育てるための指導も必要になる時期があります。

授業スタイルの一貫性

・中学校は各教科で授業ルールが異なります。小学校まで、教科が変わっても、ほぼ同じルールで授業を受けてきた生徒にとって、この変化に対応しきれない生徒が増えています。

・柔軟な思考や対応力を育てる上で、この中学校のシステムはとても有効なのですが、教科で異なるならまだしも、先生の気分が変わるルールがある状況は、認知の弱い生徒を混乱させます。

・「授業のルーティン」はとても大事で、授業のスケジュールが最初に提示されると、やりたくなくてもやるしかない状況に全員を連れていけます。（先生自身もやるしかなくなります。）

・授業の進め方のパターン化、評価基準の明確化等、生徒が安心して取り組める状況が必要です。何をどうすれば、先生が「良くできました」と褒めてくれるか（先生のポリシー）を生徒が分かっている状況を作ることが、とても大事です。

視覚支援

- ・教室の光のコントロール。電気量、カーテン、タブレット・プロジェクターの光量。

- ・見やすい資料作り。文字や図の大きさ、用紙サイズ、まぶしさを軽減する色紙に印刷。

- ・縦書き、横書きにも個々の見易さがある。

- ・黒板に提示する資料サイズ。先生が板書する文字、文字サイズ。

※「見えない」＝「見ることを諦める」＝「学習から離れる」予防していますか？

聴覚支援

- ・先生の声量、活舌、音程等の話し方。
- ・先生の話をして聴くしつけ。
- ・先生が何度でも質問に答える姿勢を持っている。
- ・生徒の注意を引きつけてからの指示を出すなどの技術。

※「聴こえない」＝「聴くことを諦める」＝「学習から離れる」予防していますか？

短期記憶の弱さを支援

- ・授業内容をスケジュールとして提示。やることの明確化。
- ・学習や作業の手順表。解き方のガイド。
- ・前時の学習の振り返り、今日の学習の振り返りを行う。大事なことは繰り返し確認。
- ・必要最低限の情報量資料 or ありったけの情報提示をして自分で取舍選択できる資料等の準備。
- ・ヒント量等に差がある資料。(学力レベル差にも対応。)

※「やることが分からない」＝「やることを諦める」＝「学習から離れる」予防していますか？

書字支援

- ・板書量の検討。ノートに書かせる内容の検討。

※書かせることに本当に価値があるのか？

認知の弱い子は、一度に二つの作業が難しい。書いているせいで、話が聞けない子がいる。

- ・読み書きに困難さがある子にとって、板書をノートに写すのはとても大変。

※授業終わりにタブレットで板書を写真に残す。【学習の振り返りの保障】

※個別に板書内容に差をつける。

「めあて」と「まとめ」だけは書かせる等、生徒の力量に合わせたルール作り。

- ・感想や作文に困難さがある。書く量を選択制にする（C：1行、B:3行、A:5行）
- ・大事な用語のみを記入させる学習プリント。

学力差に応じた達成レベル支援

- ・漢字にふりがな。(漢字を読ませたいわけではないなら、全員ふりがな付きで問題ない。)
- ・計算機の使用の許可。タブレット等で自分で調べることを認める課題提示。
- ・到達目標の明確化（基礎・標準・発展）※生徒自身が決められるようにする。
- ・取り組む課題の選択制（基礎・標準・発展）※生徒自身が決められるようにする。
- ・発展課題が終わった生徒は、リトルティーチャーとして基礎問題に取り組む生徒のサポートに回らせ（より学習の定着を図れる）、教えてもらえる子の意欲向上を手助けする（先生に教えてもらうより喜ぶ子は多い）。教えてもらった子が課題達成すれば、両者の喜びになるし、リトルティーチャーのポイントにもすることを明示する。【これができる学級経営が何よりも大事】

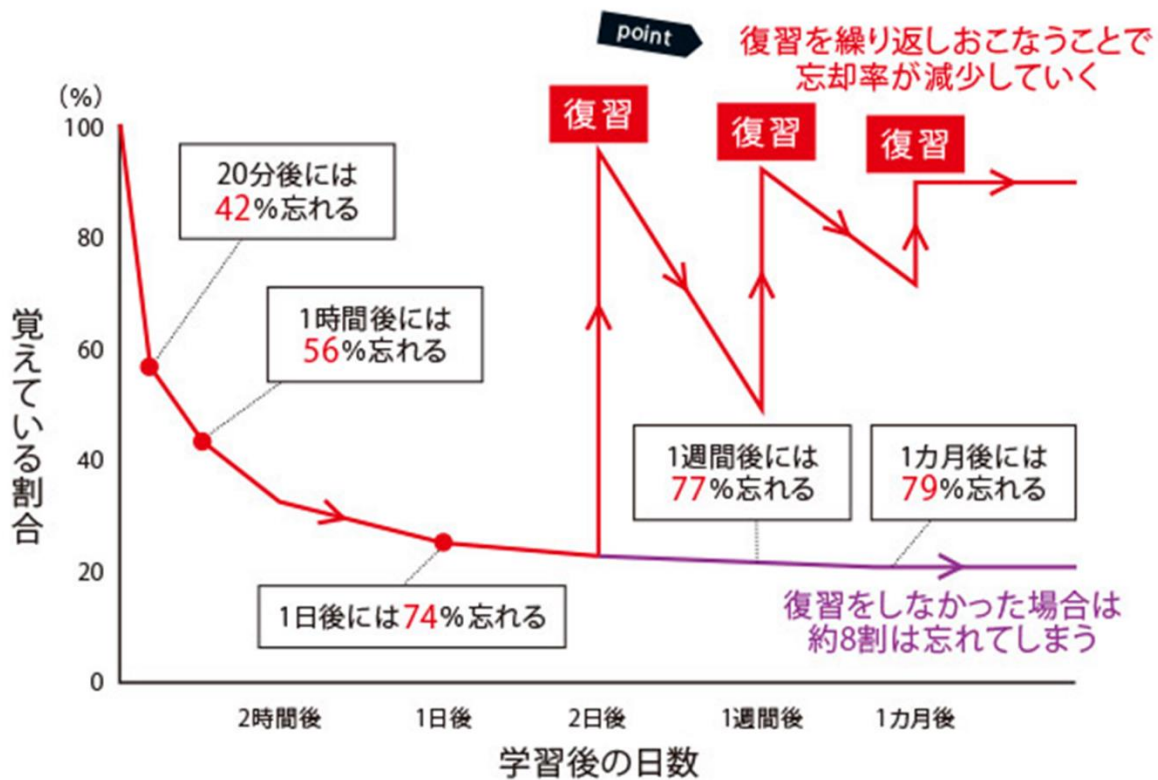
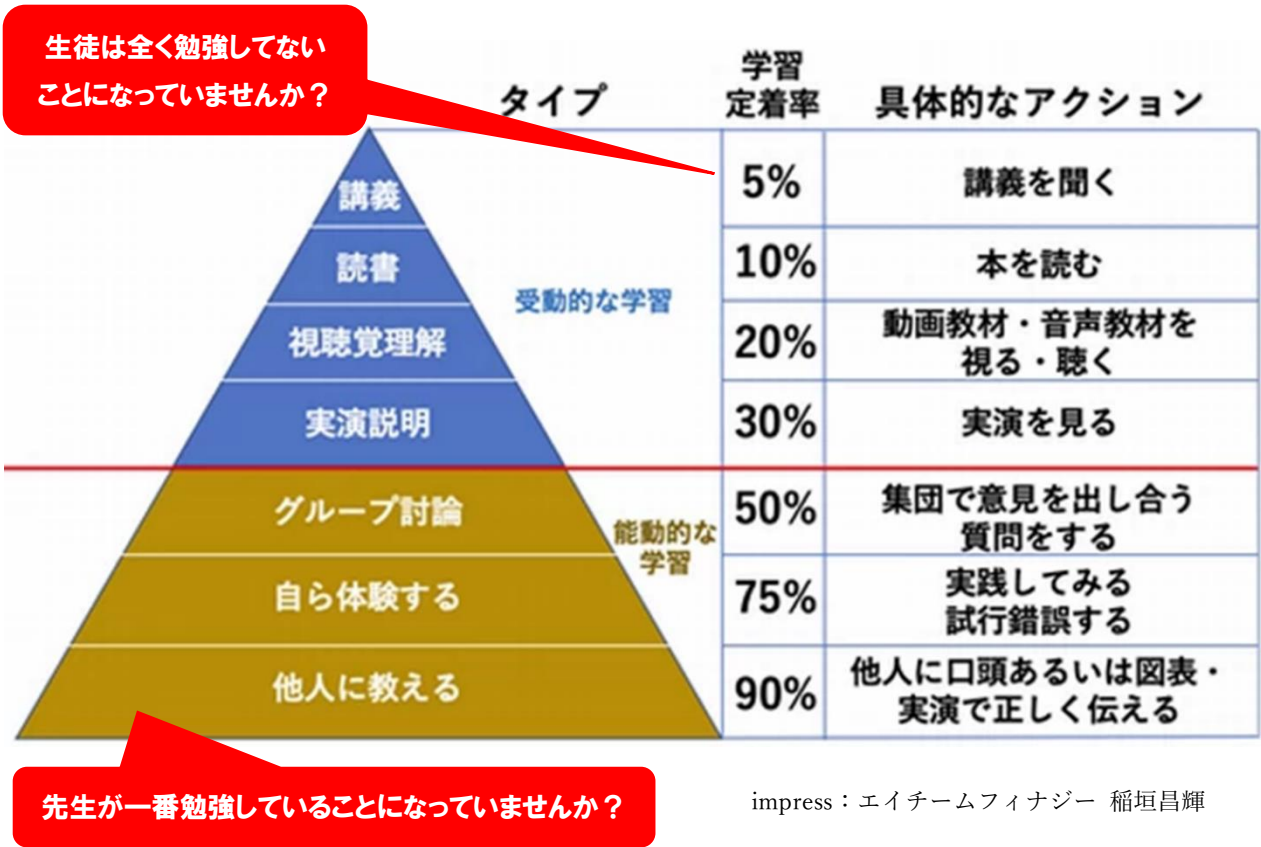
宿題・予習

- ・学習習慣は大事ですが、家庭そのものが学習ができる環境ではない生徒もいます。

「学校で勉強する」が最優先だと思いますので、「できる子はやってくる」ルールがベストだと思います。どうしてもやらせたければ、授業中にその時間を設けたり、休み時間や放課後に先生が付き合っ

てやらせるべきだと思います。もちろん家で復習すると知識が定着することは、教えるべきです。
※学校で出す課題は、先生と生徒の契約であり、保護者には関係のないことです。学校完結型の学習を目指し、もっと勉強したい子には、「しょうがないから宿題をプレゼントする」くらいの意識が必要な時代だと思います。

ユニバーサルデザイン「授業に参加させる」＝「生徒を授業の最後まで離脱させない！」



柿木隆介「最新科学で分かった最強の勉強法」

私達は、様々な学習経験から、自分に必要な情報や学習方法を選択して身に付けていきます！
先生ご自身のこれまでの経験ではなく、科学的根拠に基づいて説明できることが大切です。
未来を生きる生徒を教え導くためには、先生方自身が新しい情報を楽しく学び続けることが大切になると思います。頑張ってください。